

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-134	12-310	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Alcohol email assessment and feedback study dismantling effectiveness for university students (AMADEUS-1): study protocol for a randomized controlled trial. 大学生のためアルコールの電子メール評価とフィードバック研究 (AMADEUS-1) の効果の分析: 無作為比較試験のために研究プロトコール		
執筆者		
McCambridge J, Bendtsen P, Bendtsen M, Nilsen P. Source		
掲載誌		
Trials. 2012 Jul 6;13(1):49. doi:		
キーワード		
電子メール評価 (e メール評価)、大学生、危険飲酒、e 健康		
要 旨		
目的: アルコールは集団の健康、そして社会のために大きな問題を生じさせる。その有害性を予防し低下させるために、個人および集団に対しする介入が必要とされる。短期介入は効果的である可能性があり、学生のような高リスク群と連絡をとるために、ますますインターネットを利用することがありえる。オンライン介入の効果についての研究文献は急速に増えており、e 健康の他の領域においての共通の問題である、摩擦、評価反応性、対照条件の設定などで方法論的な問題に直面している。		
方法: 研究目的は短期オンライン介入の効果を評価することであり、ベースライン評価反応性と研究プロセスの他の潜在的影響を考慮する無作為比較試験 (RCT) デザインを使用する。全体としての学生集団を無作為抽出し、接触しない対照群、危険な飲酒者で短期評価とフィードバック (ルーチン診療) 群、短期評価だけの群に分けられ、結果を 3 ヶ月後に評価する。3-アームの並行群試験は、フィードバックの効果と効果構成要素の評価も行う。研究は、2つの大学で同時に行われ、約 15,300 人の学生が研究参加に関して盲検的にランダム化される。すべての参加者は、本研究終了後に日常的な診療介入を提供される。		
結論: 本研究はスウェーデンの大学で発生に日常的なサービスの提供を知らせて、学生集団へのオンライン介入の効果についてより広く新しいアプローチとして、アルコール消費以外の習性への関連でも貢献する。 本研究の盲検化と偽装は、倫理問題として更なる注意を要する。		